

山口大学の知財教育環境を ベースにした知財初学者向け教材の開発

○李鎔璟・木村友久(山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター)

1. はじめに

山口大学では全国初となる取り組みとして 2013 年 4 月より共通教育課程において知財科目を必修化し、入学する全学生(毎年約 2000 名) が知財教育を受けられる体制を構築した(図1)¹⁾~³⁾。本発表では、この全学必修の知財教育環境をベースにした知財初学者向け教材の開発の取り組みについて報告する。

2. 受講生の生の“声”の収集と対応

この全学必修知財科目においては毎回小レポートの形で受講生全員に対して、講義内容でよくわからなかったことや講義内容に関する質問、その他知的財産全般に関して知りたいことなどを記入・提出してもらっている。これらの小レポートを分析・解析することで受講生が関心を持っていることや知りたいことなど知財初学者の率直な生の“声”を把握することができる。そして、この“声”に対応する回答書(Q&A 形式の回答スライド)を作成し、次の講義の冒頭で主要なものをピックアップして回答するなど、授業へフィードバックしている(図2)。この Q&A に関して、受講生に『Q&A は、あなたがこの科目の授業内容を理解するのにあたって、役に立ちましたか?』とアンケート調査を行ったところ、約7割の受講生が「役に立った」と回答している⁴⁾。Q&A はあくまでも参考教材であるにもかかわらずこのような結果となったのは、受講生達自身

科目名: 科学技術と社会

~〇〇学部生のための知財入門~

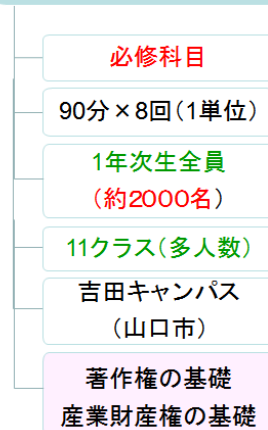


図1 全学必修知財科目の概要

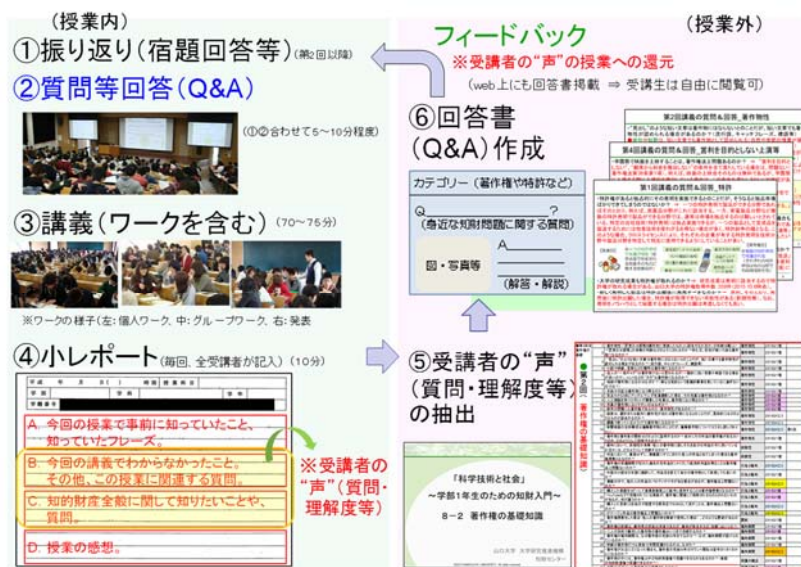


図2 受講生の“声”の収集とフィードバックの流れ

の知りたいことや質問に対する回答であることから興味・関心を持って見る・聞くことができ、また Q&A を通して教員側からの一方的な教授ではなく教員と学生の双方向的な繋がりを実感できることに起因すると考えられる。またこの Q&A 形式の回答スライドは、受講生自身の認識から理解度だけでなく講義に対する満足度の向上や能動的学習の促進にも作用し講義内容の補填ツールとして有効であることが分かった^{4), 5)}。

さらに、この Q&A 形式の回答スライドの一部は講義で使用する必須教材である講義スライドや教科書(平成28年3月に第1刷発行)⁶⁾にもフィードバックされ、教授内容のブラッシュアップと適格化へ貢献、そして受講生の知財意識の涵養とより高次の探究心への到達に寄与している⁷⁾。

3. Q&Aをベースにした知財初学者向けの教材化への取り組み

上述のとおり、全学必修の知財教育環境において聞こえてくる知財初学者の生の“声”を分析・解析・活用することで、知財教育現場における学習効果や受講生の知財意識の涵養に役立つことがわかった。そこで、これまでに蓄積した知財初学者の生の“声”(Q&A形式で 300 問超、回答スライド 140 枚超)をもとにした書籍教材化、ビデオ教材化を行った(図3、一部作成途中のものを含む)。

(1) 書籍教材

当初イメージ (表紙) 実際作成の教材 (目次) (見開き)

(2) ビデオ教材

当初イメージ (映像) 知財なんでも質問箱

※ビデオ教材について一問一答形式で短い映像を複数作成 (見たいところだけが見れる)
 ※現時点 (2017年11月時点) で一部作成途中のものあり (今後内容が変更になる可能性がある)

図3 教材の当初イメージと実際作成の教材 (1) 書籍教材 (2) ビデオ教材

今後は、本教材を実際の授業内で活用し(受講生に配布、e-learning 化、試験内容とのリンクなど)、効果検証等を行う予定である。また、山口大学では平成 28 年度から大学院においても知財教育の必修化がスタートしていることから、そこから得られるリソース(工学や農学、理学、人文学などの専門性を有する大学院生から聞こえてくる各専門性に応じた“声”)を活用した専門性を考慮した知財裾野人材(知的財産創造の担い手人材、初歩的な知財知識・問題解決スキルを有している人材、社会における知的財産の価値を認識した上で活動できる人材等)向け知財教育教材開発への発展を考えている。また山口大学では知財教育に関して文科省の教育関係共同利用拠点の認定を受けている⁸⁾ことから将来的には全国展開できる汎用的な教育システムの開発につなげることも期待できる。

【謝辞】本研究の一部は、JSPS科研費15K00980：基盤研究(C)(平成27年度～平成29年度)の助成を受けて行っています。

- 1) 「全学知財必修科目における授業改善取組みとそれによる効果分析」, 李鎔璟, 陳内秀樹, 北村真之, 阿濱志保里, 木村友久, 産学連携学会第13 回大会, 講演予稿集, 0626E0900-4, p262-263, 2015.
- 2) 「全学知財教育の実践的取り組み」, 李鎔璟, 北村真之, 阿濱志保里, 木村友久, 産学連携学会第12回大会, 講演予稿集, 0626C0910-3, p178-179, 2014.
- 3) 知的財産政策ビジョン, p35 (2013.6.7. 知的財産戦略本部決定).
- 4) 「全学必修知財科目における授業教材についてのアンケート調査～受講者からの質問対応を主眼に～」, 李鎔璟, 北村真之, 木村友久, 産学連携学会第14 回大会, 講演予稿集, 0616B1100-2, p47-48, 2016.
- 5) 「全学必修知財科目における受講者の“声”に対する対応と効果」, 李鎔璟, 北村真之, 木村友久, 産学連携学会関西・中四国支部第7回研究・事例発表会, 講演予稿集, M7-22, p43-44, 2015.
- 6) 「これからの知財入門～変革の時代の普遍的知識～」, 国立大学法人山口大学大学研究推進機構知的財産センター, ISBN: 978-4-8222-3642-7, 日経BP社, 2016.
- 7) 「全学必修知財科目における受講者の“声”の講義内容へのフィードバック」, 李鎔璟, 北村真之, 木村友久, 産学連携学会 関西・中四国支部第8回研究・事例発表会講演予稿集, M8-13, p25-26, 2016.
- 8) 「教育関係共同利用拠点の認定について」, 文部科学省HP: http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakukan/1292089.htm, (アクセス日: 2017.10.27).